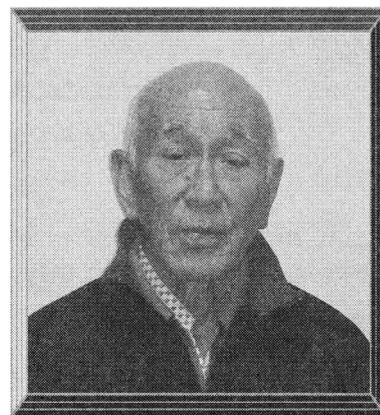


# 守り育てて来た 伝統芸能

NPO法人ふれあい吉祥院ネットワーク理事  
吉祥院六斎歴史資料展示室室長 山田 實



Minoru Yamada

## 守り育てて来た伝統芸能

祇園祭に始まった京の夏は、吉祥院天満宮の六斎念仏で別れを告げます。

六斎とは、六斎念仏踊りの略称で、昔、仏教徒が齋戒奉仕し、普通月の8、14、15、23、29、30の6日間に行った宗教行事から起こり、約千年前に空也上人が民衆に信仰を広げるため京洛の街頭に立って鉦や太鼓を打ち鳴らして読経念仏を唱えて廻ったことから始まったと伝えられています。しかし室町時代中期から次第に風流化し、特に能、狂言、歌舞伎などを取り入れて、娯楽性豊かな芸能となり、六斎念仏踊りに発展したと伝えられています。

戦前生まれの私も当時（昭和15年）15歳で親に連れられて青年会への入会をお願いに行くのがしきたりで、茶番として使い走りに雑用にと、それはきつうしごかれたものです。

笛10年と言いますが、太鼓、舞い手、踊り手も5年やそこいらでは半人前、26、27歳になってどうにか認められたものです。

私も獅子舞の頭の役目をしておりました。獅子の碁盤乗りも、五段重ねて笛の合図で逆立ちしたものです。獅子の五丁とんぼ返りのあと、獅子と土蜘蛛の戦いに、手から放たれた紙の糸、クモの巣に巻かれながら逆立ちして拍手を送る見物の人をうならせたものです。また吉祥院天満宮夏季大祭には、それぞれの六斎組が、次々と翌夜明けまで競演をして奉納したものです。

戦後の昭和27年より3年間円山公園音楽堂で、京の六斎念仏踊りを一堂に会して14組の

六斎コンクールで、連続第一位を独占し続けた頑張りが、今日の吉祥院六斎保存会の有名な京都の夏の行事の一つとなっています。

古く平安時代に空也上人によって始められたと伝えられる六斎念仏は、一千年の歴史を経て今日に伝えてきた、京都だけの伝統芸能です。「六斎念仏踊りが今日まで、なお継承されていることは、諸先輩が立派に守り続けてくださったことを心より有難く感謝し、また六斎保存会や研究会の皆さま方の努力の賜物であります。



2012年4月22日、山田實氏がお亡くなりになられました。實さんが民衆芸能の芸のあり方、傳承することの難しさを語られた時の顔は、今でも忘れられません。六斎をこよなく愛し、六斎の保存について真剣に考えておられ、私たちはそこから多くを学びました。また六斎歴史資料展示室を設置にあたり、貴重な資料等を提供していただきました。ご生前のご厚情に深く感謝するとともに、故人のご功績を偲び、謹んで哀悼の意を表します。

石田房一